

Chiba Tech News

No_703

2026年2月号

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344



令和8年度一般選抜 共通テスト利用入試、A・SA日程入試が終了



A日程入学試験1日目(2月1日)試験会場の様子

～3日)。A日程の志願者数は31,763人(昨年比689人増)、SA日程は13,376人(同102人増)となり、いずれも昨年度を上回る志願者数となった。

共通テスト利用入試の志願者増に加え、A・SA日程入試も安定した結果となり、令和8年度一般選抜は全体として順調に進んでいる。

今後も、社会の変化や受験生の多様なニーズを踏まえた入試制度の充実を図るとともに、教育内容や学びの特色をより分かりやすく発信し、意欲ある学生の確保につなげていく。

1月17日(土)、18日(日)に全国一斉実施された令和8年度大学入学共通テストを皮切りに、入学者一般選抜が本格的に始まった。大学入試センターの発表によると、今年度の共通テスト志願者数は全国で約49万6,000人となり、前年度と比べて約1,000人の微増となった。少子化が進む中であっても、全国的に一定の受験需要が維持された形であり、大学進学に対する関心の高さがうかがえる。

その得点を用いた本学の共通テスト利用入学試験は、大学独自の個別試験を課さず、共通テストの得点のみで合否を判定する方式である。現在、共通テストを利用する私立大学は500大学を超え、私立大学の約9割以上がこの方式を採用している。こうした中、コロナ禍にいち早く受験料免除を

導入し、現在も継続している点は大きな特徴であり、受験生から大きな反響を呼び、進学機会の拡大につながっている。

今年度の共通テスト利用入試の志願者数は64,867人となり、前年度の64,034人から約800人増加した。さらに、新たに導入した「5教科基準点型入学試験(共通テスト利用)」には3,258人が志願した。この入試は、定員による競争ではなく、あらかじめ定めた基準点を満たせば合格となる仕組みであり、国公立大学との併願を視野に入れつつ、確実な進路選択を目指す受験生から高い関心を集める結果となった。

続いて実施された大学独自のA日程・SA日程入学試験は、2月1日(日)から4日(水)まで全国19会場で行われた(サテライト会場は地域により2月1日～2日、および2月1日

令和8年度一般選抜 志願者数

学部・学科名		5教科基準点型(共通利用)	共通テスト利用(前期)	A日程入学試験	SA日程入学試験
工学部	機械工学科	252	4,550	2,319	968
	宇宙・半導体工学科	213	3,835	1,848	795
	先端材料工学科	186	3,505	1,774	738
	電気電子工学科	203	4,275	2,181	885
	情報通信システム工学科	227	4,398	2,188	919
創造工学部	応用化学科	180	3,604	1,564	616
	建築学科	193	4,102	1,970	797
	都市環境工学科	186	3,823	1,735	713
先進工学部	デザイン科学科	160	3,724	1,904	771
	未来ロボティクス学科	183	3,645	1,848	819
	生命科学科	168	3,513	1,482	608
情報変革科学部	知能メディア工学科	204	3,689	1,860	838
	情報工学科	252	4,757	2,441	1,018
	認知情報科学科	184	3,554	1,810	809
未来変革科学部	高度応用情報科学科	183	3,664	1,857	805
	デジタル変革科学科	151	3,171	1,538	659
	経営デザイン科学科	133	3,058	1,444	618
総計 () 内は昨年実績		3,258	64,867 (64,034)	31,763 (31,074)	13,376 (13,274)

[CONTENT]

【P2】伊藤学長の未来語録／教職員向けに「ChatGPT Edu」の提供を開始

【P3】千葉県知事・熊谷俊人氏が来訪／甲府工業高校と包括連携協定を締結／総合科学特論「web3/AI概論」第4期を開講

【P4】デザイン科学科・橋本研究室が小

学校の余裕教室を活用した「たかにの森」を開設／青灯亭にて初釜を開催

【P5】活躍する校友「大治良高さん」／「日本赤十字社血液事業本部長賞」受賞

【P6】加藤さん「学生ベストプレゼンテーション賞」受賞／磯野さん「ポス

ター賞」受賞／細澤さん、吉岡さん、武本さん、鶴澤さん「優秀賞」受賞／太田さん「最優秀ポスター発表賞」受賞／神原さん「優秀賞」受賞／橋本さん、鈴木さん「第18回JRM優秀論文賞」受賞／第43回 祝勝・奨励会を開催

【P7】デザイン科学科・西田研究室が

企業・地域と連携／就職・進路支援便り

【P8】文化会新年会を開催／二十歳のつどいに携わった鶴岡さん／能登半島輪島市黒島地区での復興ボランティア活動／1月のできごと／3月のスケジュール



伊藤学長の 未来語録

千葉工業大学は、今後、どのような姿勢で未来に向き合うべきなのか、伊藤穰一学長に聞いた。

千葉工業大学は、 AI分野で世界一をめざします

AIは「考えること」の あり方を変える技術

今後、千葉工業大学として力を入れていかなければならないのが、AIを使ったものづくりです。AIについては、これまでも『web3概論』などの授業で触れてきましたが、この分野は日進月歩、目まぐるしく動いています。AIには賛否両論がありますが、とにかく、まずは触って、試してみしてほしい。私自身、毎日、AIを使っています。例えば、返信したいメールに星をつけると、AIが全部返信メールのドラフトを作成してくれます。また、進めなければならないプロジェクトについて、日頃からAIを相手にディスカッションを行ったりしています。このように私にとってAIは単なる効率化のツールではなく、一緒に思考をまとめたり、プロジェクトの進行管理をしたりするパートナーに近い存在となっています。学術論文の執筆においても、論理の弱い部分をAIに指摘させたり、膨大な過去の論文から反論を見つけ出させたりすることで、研究の質とスピードを飛躍的に高められます。AIは、使い方次第で、私たちの創造性は大きく向上します。どうです？ワクワクしてきませんか？

「問い」を立てる力が 求められる時代

AIの登場によって、ものごとを進めるスピードは格段に上がりました。さらに、これまでは大きな組織でなければできなかったことを小さなチーム、もっといえば、一人でも実現できるようになりました。アイデアさえあれば、すぐに試し、失敗し、学び、また次に進める、そうした時代に私たちは生きているのです。こうした環境では、「何をつくりたいのか」「どんな問題解決をしたいのか」を考える力がこそが重要な意味を持ちます。AIは自動的にコードを書いてくれますが、AIに何をしてほしいかを考えるのは人間。その「問い」を立てる力が求められる社会になったのです。学生の皆さんには、ぜひ、自分なりの関心や問題意識を大切に、主体的に挑戦を続けてほしいと願います。AIを武器にすれば、簡単に言語の壁を乗り越えられ、例えば世界中で評価される論文を書くことも可能になります。目標を高く設定しましょう。皆さんの挑戦を、応援しています。

企業のAI化を担う 人材を育てるのが使命

今後、AIの活用事例を教職員や学生の皆さんに共有し、授業にも取り入れていきたいと考えています。AIを学びたいと志望してくる学生も増えてきています。学内だけでなく、IT企業とも連携し、こうした学生のニーズにも応えていこうと考えています。また、千葉工業大学が長年にわたって高い就職率を誇ってきた背景には、企業とコミュニケーションをとりながら社会に求められる人材を育て、輩出してきたという実績があります。AIによって仕事の仕方、働き方の変革が求められていく企業に、それを実践できる頼もしい人材を送り出すこと、それはまさに千葉工業大学の使命です。学生、教職員の皆さん一人ひとりが新しい技術と向き合い、チャレンジを続けていく。その積み重ねが大学の未来、そして社会の未来につながっていきます。ぜひ、私と一緒にAI分野で世界一の大学をめざしましょう。

生成AI活用に向けた教育基盤を整備 教職員向けに「ChatGPT Edu」の提供を開始

千葉工業大学は、OpenAI社と契約を締結し、教育機関向け生成AIサービス「ChatGPT Edu」を導入した。昨年末より、専任教職員および研究員を対象に提供を開始し、教育・研究活動や学内業務における生成AI活用の基盤整備を進めている。

ChatGPT Eduは、教育機関での利用を前提に設計された生成AIサービスであ

り、入力データが学習に利用されないなど、高度なデータ保護とセキュリティ管理を備えている。こうした特性を活かし、授業設計や研究活動の高度化、事務業務の効率化など、幅広い分野での活用を想定している。

昨年12月および今年1月には、生成AIの活用に関心を持つ専任職員を対象とした勉強会を開催した。勉強会

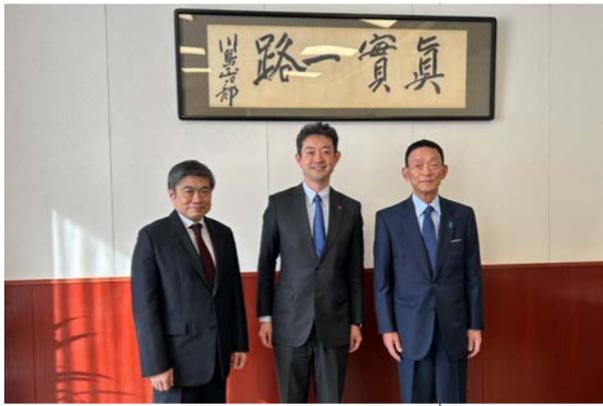
では、ChatGPTの基本的な使い方に加え、事務業務における具体的な活用事例の共有や意見交換が行われ、生成AIを実務に取り入れるための理解が深められた。今後も継続的な開催を予定しており、教員向けの勉強会についても準備を進めている。

また、生成AIを活用した教育の高度化を目指し、学生一人ひとりに寄り添う学

修支援のあり方についても検討を進めている。教職員による主体的な実践を起点に、生成AIを前提とした新しい学びの形を構築している点が特徴である。

今後も、生成AIの活用を通じて教育・研究環境の充実を図り、その成果を学生教育の質向上へとつなげていく。

千葉県知事・熊谷俊人氏が来訪 理系人材育成や先端研究施設について意見交換



左から伊藤学長、熊谷知事、
瀬戸熊理事長

昨年12月23日(火)、千葉県知事の熊谷俊人氏が県幹部職員とともに津田沼キャンパスに来訪された。当日は、瀬戸熊修理事長および伊藤穰一学長らが応対し、意見交換、学内研究施設の視察が行

われた。

意見交換では、本学の教育・研究の特色を踏まえながら、理系人材の育成を中心に、地域社会や産業界と連携した高度専門人材育成のあり方について活発な議論が交わされた。

特に、学生が研究や実践を通じて地域課題の解決に関わる仕組みづくりや、将来の産業を支える人材育成の重要性が共有された。

その後、熊谷知事一行は津田沼キャンパス内の教育・研究施設を視察した。高度技術

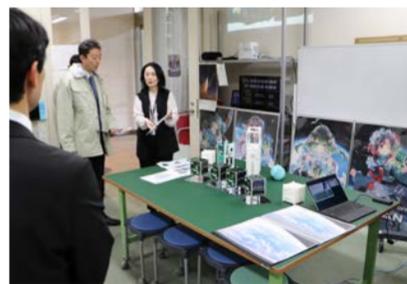
者育成プログラム実習室では、学生が開発に携わる超小型衛星「BOTAN」を通じて実践的な教育について説明が行われた。続いて、クリーンルームや未来ロボット技術研究センター(fuRo)を訪問し、四足歩行ロボットの最新研究や開発状



未来ロボット技術研究センター
視察の様子

況について説明を受け、熊谷知事が実際にロボットを操作する場面も見られた。

今回の来訪を通じて、技術シーズの社会実装やスタートアップ創出、学生の地域課題解決への参画など、今後の連携強化に向けた認識が共有された。なお、本件は熊谷知事の公式X(旧Twitter)でも紹介され、教育・研究活動を広く発信する機会となった。



高度技術者育成プログラム実習室
視察の様子

甲府工業高校と包括連携協定を締結 教育・研究を通じた人材育成を推進

山梨県立甲府工業高等学校と教育・研究に関する包括連携協定を締結した。1月19日(月)には、甲府工業高校において協定締結式が行われ、同校の萱沼恵光校長と本学の瀬戸熊修理事長が調印書に署名した。

本協定は、学生・生徒の進学やキャリア構築の支援をは

じめ、教育・研究分野における相互理解の促進を目的とするものである。今後は、本学教員による人工知能やロボットなど先端分野の講義を甲府工業高校で実施するほか、学生と生徒の交流なども予定している。

萱沼校長は「高校ではカバーしきれない分野について、

生徒がより幅広い知識に触れることを期待している」と話している。本協定を通じて、高大連携による実践的な学びの充実と、次世代の理工系人材育成に取り組んでいく。



萱沼校長(左)と瀬戸熊理事長

総合科学特論「web3/AI概論」第4期を開講 AIエージェント時代の人材育成を本格化



2026年4月より総合科学特論「web3/AI概論」第4期を開講する。本講座は、AIが自律的にタスクを遂行する「AIエージェント」との協働を中核テーマに据え、学生と社会人が混合チームを組んで社会課題の解決に取り組む実践的な教育プログラムで

ある。

第4期では、Microsoftが開発中の戦略思考型AIシステム「Amplifier」を、国内の大学として初め

て教育カリキュラムに導入する。AIを単なるツールとして使うのではなく、人間の思考を拡張する「協働パートナー」として活用し、課題発見から分析、企画、検証までの一連のプロセスを加速させる学びを提供する。

本講座は2021年度に開講

し、これまでにカリキュラムを進化させながら累計800名以上の受講生を輩出してきた。2025年度には、AIと対話しながら開発を進める「バイブコーディング」を本格導入し、受講開始時に17.6%だったプロダクト開発経験者が、わずか3か月で45.6%へと増加するなど、高い教育効果を上げている。

第4期では、この実績を基盤に、AIエージェントを活用した新たな学習フェーズへと進む。受講生は、AIエージェントの仕組みを理解した上で、社会課題を構造的に捉え、多様なテクノロジーを適

切に組み合わせながら解決策を創出する力を養う。学生と社会人が混在するチーム編成により、多様な視点を取り入れたプロジェクト型学習を行う点も特徴である。

科目責任者を務める伊藤穰一学長は、「AIエージェント時代には、コードを書くこと以上に『何を創るか』『どのようにAIを操るか』が重要になる。本講座では、AIを共創の相手として使いこなし、自ら問いを立てて社会に価値を生み出せる人材の育成を目指す」と語っている。

総合科学特論「web3/AI概論」は、AIやweb3技術に関心を持つ学生・社会人に向け、次世代の学びと実践の場を提供する講座である。

創造工学部デザイン科学科・橋本研究室 小学校の余裕教室を活用した「たかへの森」を開設

詳細は
コチラ ▶▶▶



橋本教授(後列中央)と研究室のメンバー

創造工学部デザイン科学科・橋本都子研究室の学生が、東京・板橋区立高島第二小学校において、児童の新たな居場所となる空間「たかへの森」を開設した。本プロジェクトは、同校から有効活用されていなかった余裕教室の改

良を依頼されたことをきっかけに、空間設計から設営までを学生が主体となって進めた取り組みであり、2025年10月の開設以降、児童や教員から好評を得ている。

プロジェクトには、橋本研究室の小池直哉さん(修士2年)

をはじめ、秋場大貴さん、遠藤修羅さん、大林有沙さん、川原陸也さん、坂巻遙斗さん、森田陽大さん、山形孔希さん、山本奏一郎さん、油科百咲さん、吉光航太郎さん(3年)が参加した。小池さんが修士論文の研究フィールドとして同校と関わりを持っていたことから、本プロジェクトが始動した。

学生たちは、全校児童の約25%が外国籍であり、特別支援学級も設置されている同校の特性を踏まえ、「落ち着いて過ごせる居場所」をコンセプトに余裕教室を三つのゾーンに分けた。授業で使用する「学習スペース」、教員と話し合うための「コミュニケーションスペース」、気持ちを落ち着かせるための「リラックススペース」であり、ロッカーやパーティションを活用して空間を構成している。

設計にあたっては、校長や担当教員の意見を反映し、パーティションの高さを調整するなど細部に配慮した。芝

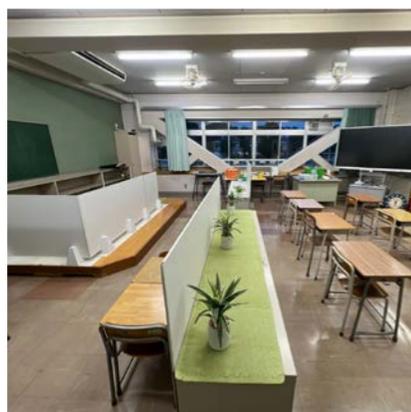
生をイメージしたマットを敷いたリラックススペースは、児童に安心感を与える場となっている。小池さんは「先生も児童も有効的に使っている様子が確認でき、やって良かったと感じている」と話す。

名称の「たかへの森」は、親しみのある森のような空間になってほしいとの思いから名付けられ、ロゴも学生がデザインした。開設後の観察では、学習支援や友人同士のトラブル後のクールダウンの場として活用されており、教員からは「これまで行き場のなかった児童に、安心して過ごせる場所が生まれた」と評価されている。

橋本教授は「若いデザイナーの卵ならではの視点から自由な発想を形にしてほしい」と思い、プロジェクトを見守ってきた。今後、この空間がどのように使われていくのか注目していきたい」と語っている。



整備前



整備後



整備前



整備後

青灯亭にて初釜を開催 新たな学びの場を提供

1月11日(土)、津田沼キャンパス2号館20階「青灯亭」にて、初釜を開催した。本行事は、新年を寿ぐ茶会として企画されるとともに、今春竣工した茶室「青灯亭」のお披露目を兼ねたもので、学外来賓を含む教職員、学生、卒業生など約120名が参加した。

当日の初釜は二席構成で行われ、一席目は「青灯亭」という場の魅力と、茶室建築や道具を生かした正統的な茶の湯の世界を体験する席として設えら

れた。学長をはじめ、教員・職員が一体となって席を運営し、大学行事ならではの落ち着いた

雰囲気の中で参加者は静かな時間を共に過ごした。

二席目は、学生が主体となっ



学生中心に設けられた二席目の様子

て運営され、西田絢子研究室の学生、茶道部員が協力し、お点前や半東(進行・道具説明)を学生自身が考え来場者を迎えた。学生らしい感性と工夫によって茶道の精神を体現しようとする姿は、学びの場としての初釜のもう一つの大きな価値を示すものとなった。

また、書道部の協力により、きごう揮毫作品が展示・使用され、日本文化に関わる部活動の連携も印象づけられた。

活躍する校友

シチズン時計株式会社 代表取締役社長

おおじ よしたか
大治 良高 さん (62歳) 昭和61年 機械工学科卒



「モノづくり」にこだわる社風でチャレンジ精神を養う

小さな宇宙といわれる腕時計。いまや多機能の情報端末という面も。「でもゼンマイで駆動する機械式もデジタルネイティブの若者の間で結構な人気です」。日本を代表する時計メーカーのひとつ、シチズン時計の第11代社長に昨年4月就任した大治良高さんは若者の時計回帰を語る。富士山を西に望む本社(東京都西東京市田無町)にうかがった。

生まれは京都市中心部の御所のそば。幼稚園に入る前まで過ごし、サラリーマンの父の転勤で東京へ。高校時代、数学と物理の成績はよかったが、英語は苦手だった。「3科目(英数理)入試なら英語の失点をカバーできる」と千葉工大を選んだ。プラモデルの組み立てや機械いじりが面白かったせいか、「迷うことなく機械工学科でしたね」。

津田沼キャンパスで4年間を過ごした1980年代は『ジャパン・アズ・ナンバーワン』(ヴォーゲル著)がベストセラーになった日本経済の黄金期。金属工学科とともに本学創立以来の歴史を持

つ機械工学科には毎年100人を超える、ものづくりを志す学生が集まった。

同じ学科の友人と小さなテニスサークルを作り、大学近くで練習し、ときに軽井沢や伊豆へ遊びがてら足を伸ばしてテニスを楽しんだ。またキャンパスから遠くない友人の下宿でワイワイガヤガヤ酒を飲んだ。「仲間と集まり、テニスをしているときが一番楽しかったが、授業の出席率はよかったですよ」と振り返る。

4年次の卒業研究テーマは「モーターのノイズ」。長期間稼働すると異音が発生する。その要因を分析、まとめて、教授推薦でシチズン時計へ入った。当時、田無と埼玉県所沢に工場があり、「『遠方への転勤はない』と聞き、大学同様、家から通える」と。しかし、思い通りにならないのが人生だ。

はじめはQ&Q(普通価格帯ブランド)のデジタル時計やカード型電卓の商品企画や設計と、希望はかなった。その後、腕時計のOEM(委託ブランド品製造)の企画にも携わったが、入社8年目

の1994年に一変。この年から5年半、香港に駐在。一時帰国をばさんで2001年、中国・広東省(東莞)にある腕時計のOEM生産工場の責任者(工場長)へ。ときに37歳。週末、車とフェリーで2時間ほどかけて家族の暮らす香港へ戻る日々だった。丸4年努め、間をおかず今度は東南アジアの販売拠点であるシンガポール支店長に。05～08年の3年間、シチズンブランド腕時計の拡販に汗を流した。

「仕事でお客さまに迷惑をおかけして始末書を書いたり、これはずっと昔の話ですが、OEM担当のとき腕時計の文字板や針、そしてバンドを自由に選べ、納期も短いという企画を立てたが、在庫の山を作り、大失敗したこともありました」と率直だ。「失敗も経験のうち、という大らかさ、自由闊達さが、モノづくりへのこだわりと並ぶシチズンの社風です。海外へも『勉強してこい』と会社は送り出してくれたと思っています」。

帰国後は主に経営企画、製品開発畑を歩み、2016年執行役

員、翌年取締役、22年に常務とステップを踏んできた。時計産業は「販売数量は微減だが、付加価値向上による単価上昇で金額は伸びており、今後も成長が期待されています。定期的な電池交換不要の光発電式エコドライブ(腕時計)でわが社は世界をリードしているほか、高価格帯の機械式時計にも力を入れていきます」と意気込む。

コトあるたび、小さいころテレビでよく耳にした「暗いと不平を言うよりも、すすんで灯りをつけましょう」のフレーズが頭をよぎり、何事にも自分で取り組むようにしているという。「ゴールをしっかり見据え、あせらず一歩々々先へ」と社員には話す。

では、入社面接で接してきた現代の学生たちはどう見えるのか。「みな真面目で素直。ただ、安全なところで思考・行動している感じです。チャレンジ精神を胸に、長い人生、失敗を恐れず、主体性をもって自分の考えを発信できる人になって欲しい」と励ます。週末はジョギングでからだを心のリフレッシュする。

「日本赤十字社血液事業本部長賞」受賞 千葉県第一号受賞団体に

津田沼キャンパスが、令和7年度に新設された「日本赤十字社血液事業本部長賞」において千葉県代表として推薦され、千葉県第一号受賞団体となった。本賞は令和7年12月15日(月)に授与され、日本赤十字社血液事業本部長 紀野修一氏より贈られた。

本賞は、献血事業において顕著な功績を挙げた団体に贈られるもの。本学は昭和44年より学内献血に協力

し、当初は体育会の学生が主体となって運営や呼びかけに尽力した。体育会学生の献身的な協力があつたからこそ、半世紀以上にわたり継続してきた取り組みである。現在も献血実施時には非常に多くの学生が参加しており、将来の血液事業を支える若年層の献血協力の推進に大きく貢献している点が高く評価された。また、コロナ禍においても血液確保の

重要性を踏まえ、早い段階で学内献血を再開したことも、今回の推薦理由の一つとなった。

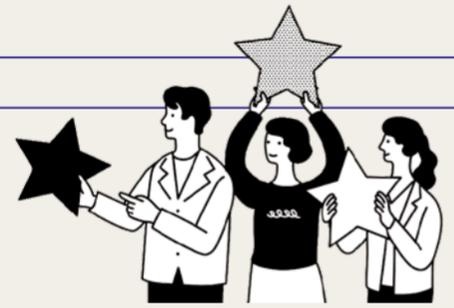
毎年4月、7月、12月の年3回、学内献血を実施しており、次回も4月に実施が予定されている。

この度の受賞は、これまで献血に協力してきた学生およ



贈られた賞状とトロフィー

び教職員の理解と協力の賜物であり、今後も社会貢献活動の一環として献血活動に積極的に取り組んでいく予定。引き続き、皆さまの理解と協力をお願いしたい。



受賞おめでとうございます!



授与団体・受賞名称

日本熱物性学会
第46回日本熱物性シンポジウム
「学生ベストプレゼンテーション賞」

3方向ノズルを用いたガスジェット浮遊炉
による高温融体の熱物性測定の研究

かとう そう
加藤 蒼 さん

先端材料工学専攻修士2年

小澤俊平研究室

受賞日
2025.10.8

詳細は
コチラ >>>



授与団体・受賞名称

日本油化学会 オレオマテリアル部会
第7回オレオマテリアル学術交流会
「ポスター賞」

酸化亜鉛ヤヌス粒子担持薄膜の
調製およびその濡れ性

いその ふみ
磯野 布実 さん

応用化学科4年

柴田裕史研究室

受賞日
2025.11.14

詳細は
コチラ >>>



授与団体・受賞名称

国立大学法人 千葉大学
第10回 千葉大学セキュリティ
バグハンティングコンテスト「優秀賞」

ウェブサイトにおける脆弱性調査および
リスク評価

ほそざわ ゆうま
細澤 悠真 さん

よしおか ゆう
吉岡 優 さん

たけもと りゅう
武本 龍 さん

うざわ ゆうき
鶴澤 勇希 さん

情報工学科2年

受賞日
2025.11.18

詳細は
コチラ >>>



授与団体・受賞名称

モロシス研究会(旧称:哺乳動物遺伝学研究会)
第35回モロシス研究会
「最優秀ポスター発表賞」

マウスES細胞の全能性再獲得における
遺伝的背景の影響

おおた まさき
太田 昌輝 さん

生命科学専攻修士1年

清澤秀孔研究室

受賞日
2025.11.25

詳細は
コチラ >>>



授与団体・受賞名称

日本機械学会 第34回スペース・エンジニアリング・
カンファレンス 先進軽量構造システム研究会(ALSS)
学生ポスターセッション「優秀賞」

解析モデルを援用したガウス過程回帰による
ケーブルリブ構造の形状推定に関する研究

かんばら ひなた
神原 日向 さん

機械電子創成工学専攻修士1年

秋田剛研究室

受賞日
2025.12.19

詳細は
コチラ >>>



授与団体・受賞名称

富士技術出版株式会社
「第18回JRM優秀論文賞」

CFD Analysis of Takeoff from a Water Surface
for an Insect-Scale Aerial/Aquatic Robot

はしもと のあ
橋本 乃彩 さん

すずき るい
鈴木 瑠緯 さん

未来ロボティクス専攻修了

未来ロボティクス学科卒業

菊池耕生研究室

受賞日
2025.12.26

詳細は
コチラ >>>



第43回 祝勝・奨励会を開催 学生の挑戦と成果を称え、交流を深める

学内外の競技会や文化活動において優れた成果を収めた学生団体を表彰する「第43回 祝勝・奨励会」が、1月22日(木)に津田沼キャンパス2号館3階大教室で開催された。本行事は、学生の努力と挑戦の成果を称えるとともに、学生同士や教職員との交流を深める場として毎年行われている。

今年度は、体育会および文化会に所属する計15団体が表

彰対象となり、各団体のこれまでの取り組みと成果が紹介された。会場には受賞団体の学生をはじめ、関係者が集い、和やかな雰囲気の中で式典が行われた。

式典では、学生委員長による挨拶に続き、瀬戸熊修理事長が祝辞を述べ、挑戦を続けてきた学生たちの努力を称えた。表彰では、瀬戸熊理事長から各団体にお祝金が授与され、学生た

ちは仲間の健闘をたたえ合いながら喜びを分かち合った。また、昨年度から新設された伊藤穰一賞(62組)が発表された。懇

談では、瀬戸熊理事長や教職員が学生と直接言葉を交わし、活動の裏側や今後の目標について語り合う姿が見られた。



瀬戸熊理事長と談笑する学生たち



空手道部が獲得したトロフィー

西田研究室が企業・地域と連携 学生主体で社会にひらくデザインを実践



ウエディングノート『ハピのわ』

デザイン科学科・西田絢子研究室では、学生が主体となり、企業や地域と連携しながら社会課題に向き合うプロジェクト型の教育・研究に取り組んでいる。今回は、株式会社ウエディングパークおよび株式会社八芳園との産学連携プロジェクトを紹介する。

同研究室は、日本最大級の結婚情報サイトを運営するウエディングパーク株式会社と連携し、結婚準備をより前向きで楽しい体験とするためのウエ

ディングノートのデザインプロジェクトを実施し、昨年12月12日に成果物を公開した。本プロジェクトでは、結婚準備を単なる作業ではなく、ふたりの価値観や未来を描く「人生設計の時間」として再定義し、学生が企画からデザインまでを担当した。

完成したウエディングノート『ハピのわ』は、結婚準備の過程を記録し、思い出として残せる構成が特徴で、現在はウエディングパーク公式サイトにて公開されている。西田准教授は、「婚姻数の低下や『なし婚』の増加といった社会背景を踏まえ、若い世代が結婚について楽しく考えられるデザインを目指した。2年生から大学院生まで

17人4チームが参加し、調査や企業との議論、試作を重ねた経験は、学生にとって大きな成長の機会になった」と振り返る。

採用案を担当したAチームは、4年生の貝津杏咲さん、八代真一さん、3年生の小尾直生さん、2年生の坂井明星さんで構成されている。貝津さんは「言葉のわずかな違いが印象を左右することを学び、ユーザーの立場に立った明るく前向きなデザインを意識した」と語り、小尾さんは「初めてのプ

ロジェクトを通して、価値観やニーズを踏まえたものづくりとチームで進めるマネジメントを学んだ」と話している。

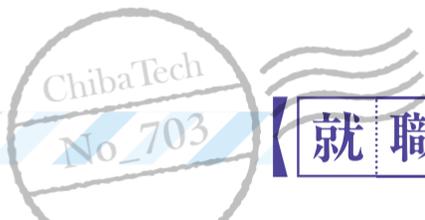
学生と地域住民が交流

同研究室では、企業連携にとどまらず、地域と協働したプロジェクトにも継続的に取り組んでいる。2025年11月には、幕張町を舞台とした「幕張セッション×Chiba Bluegrass Festival Spin-off」に参画し、学生と地域住民が交流する場のデザインを行った。本プロジェクトの詳細については、本学Webサイトのプロジェクト紹介ページにて掲載している。



西田研究室のメンバー

詳細は
コチラ



就職・進路支援便り

3年生・修士1年生向け支援(他学年の参加可)

3月1日に採用情報公開・エントリー受付開始となり、各企業の採用活動が本格化します。既に採用選考を進めている企業もありますが、これから採用活動をスタートする企業も多数あるため、これから活動量を増やすことが大切です。何をしたら良いかわからない、不安でなかなか進めないといった悩みがあれば、迷わず就職・進路支援部にご相談ください。就職システムからの個人面談予約も可能です。

3月も、千葉工大生を積極採用する企業が集まる「オープン・カンパニー」を実施します。1月実施の際は、多くの学生が参加し、企業との相互交流を活発に行っていました。今後はより多くの企業が募集要項などの詳細を公開し、働くイメージも湧いてくると思います。例年、この説明会に参加し内定に繋がった先輩が沢山います。積極的に参加し、わからないことや不安なことがあれば、企業担当者に質問しましょう。

また、人と話すことに対する苦手感や課題感から就職活動への不安がある方、就活中のメンタルヘルスに不安がある方向けのオンラインセミナーを、経験豊富なハローワークのスタッフと共に実施いたします。現在の就職活動の概要や、ハローワークのサポート体制等についてもお伝えする予定です。全学年対象のセミナーですので、保護者の皆様も是非お気軽にご参加ください。実施日程や参加URL等の詳細は、決定次第メール配信・CITポータル掲示にてお知らせいたします。

4年生・修士2年生向け支援

卒業論文・修士論文発表が終了し、就活を再開する学生向けに、千葉工大生積極採用の企業と直接出会えるイベントを実施します。企業には2週間以内のスピード選考を実施いただき、4月入社を目指せます。学内で企業と出会う最後のチャンスです。未内定学生は必ず参加してください。当日は、希望企業との面談の他、就職・進路支援部スタッフとの面談(対面の場合)、企業紹介等のサポートも可能です。参加企業等の詳細は、決定次第メール配信等でお知らせします。個別相談も活用して、内定を掴みましょう。例年、参加学生の9割が内定を獲得する貴重な機会です。保護者の皆様の後押しも是非お願いいたします。

日程	参加予定企業
3/16(月) オンライン	チームラボ、日立パワーソリューションズ、吉野石膏、NECフィールディング、エービーシー商会、北興化学工業、カリモク家具、日立情報通信エンジニアリング、大成ロテック 他
3/17(火) 対面	大平洋製鋼、日本エレベーター製造、日本デジタル研究所、三菱電機プラントエンジニアリング、コマニー、全薬ホールディングス、東京めいらく、旭情報サービス、トーモク 他
3/18(水) 対面	理化学工業、日産車体、ゼブラ、江東微生物研究所、三井化学、成田エアポートテクノ、三菱電機システムサービス、電通総研IT、田島ルーフィング、ロンシール工業 他
対象	全学部全学科
予約	就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。企業追加の際も同様にご確認ください。

★対面は、津田沼キャンパスで実施。私服参加可。

日程	イベント名
2/24(火)、3/2(月)、 3/5(木)、3/11(水)	企業との対面マッチング会
3/25(水)	26卒向けWebセミナー

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進学等の卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いいたします。登録が確認できない場合、卒業後でも個別連絡をさせていただきます。

文化会新年会を開催

—多彩な表現と交流で新年の幕開けを祝う—

1月15日(木)、津田沼キャンパス2号館3階大教室にて、文化会主催による「文化会新年会」を開催した。本行事は、文化会に所属する各団体が一堂に会し、新年の節目に交流を深めるとともに、日頃の活動成果を披露する機会として行われている。



会場を盛り上げた吹奏楽部の演奏

当日は、文化系団体による多彩なパフォーマンスが披露され、会場は終始にぎわいを見せた。アカペラサークルによる合唱やアカペラ、校歌の演奏が披露されたほか、航空工学研究会による展示や発表、吹奏楽部による演奏などが行われた。書道によるパフォーマンスでは、力強い筆致で文字を描き出す様子が披露され、ダイナミックな筆さばきが生み出す表現は多くの来場者の注目を集めた。完成した作品は、旧正月(2月17日)まで1号館1階に展示された。

会の途中には、瀬戸熊修理事長や伊藤穰一学長が学生たちと歓談する場面も見られ、各団体の活動内容や今後の目標に耳を傾けながら学生を激励した。学生たちにとっては、日頃の取り組みや思いを直接伝える貴重な機会となった。



書道部による新年に相応しいパフォーマンス

文化会新年会は、異なる分野で活動する学生同士の交流に加え、大学を支える役員との対話を通じて、文化活動の意義を改めて共有する場となっている。

能登半島輪島市黒島地区での復興ボランティア活動

— 建築学科4年・鈴木和真さんが地域の伝統行事再現に参加 —

建築学科4年の鈴木和真さんが、能登半島地震の被災地である石川県輪島市黒島地区において、復興支援活動に継続的に尽力している様子が地元紙で取り上げられた。鈴木さんは、地域の復興に携わる中で、地震の影響などにより長らく中断していた伝統行事の再現にも参加し、地域住民と協力して祭礼の復活に取り組んだ。

今回の活動では、祭礼の再現に向けて太鼓演奏が行われ、鈴木さんをはじめとする本学の学生が、叩き手や先導、担ぎ役として参加したほか、学生の宿泊場所の制作など、運営の裏方としても重要な役割を担った。

参加学生は、建築学科の中村^{けいた}溪太さん、加藤^{かずま}千馬さん、佐藤^{ゆうや}佑哉さん(3年)、デザイン科学科の高橋^{ゆうと}優斗さん、田中誠也さん(4年)。太鼓演奏は、地域住民と学生が一体となって音を響かせる場となり、祭りの雰囲気をもよおせるとともに、復興への祈りを込めた象徴的な取り組みとなった。鈴木さんは今回の活動について、「地域の方々と直接関わり、喜びや思いを共有できたことは貴重な経験であった。建築を学ぶ立場として、被災地の現状に触れながら、学びを社会にどのように生かしていくかを改めて考える機会となった」と述べている。

地域住民からは、「若い世代が関わってくれたことで地域に活気が戻った」「祭り復活への希望につながった」といった声が聞かれた。

なお、本取り組みは地元紙である能登新聞(1月12日)に掲載されたほか、東京新聞をはじめとする複数のメディアでも紹介された。

若者の視点で式典を創る —「二十歳のつどい」に携わった鶴岡晟弥さん—

認知情報科学科2年の鶴岡^{つるおか}晟弥さんが、東京都北区で開催された「二十歳のつどい」に企画委員として参加し、式典の企画・運営に携わった。近年、成人式や「二十歳のつどい」では、行政主導にとどまらず、若者自身が主体的に関わる取り組みが広がっている。北区では、区が「若者の視点で式典をアップデートしたい」との考えから、20歳前後を対象に企画委員を初めて公募した。集まったのは19~21歳の8人で、企画委員会「#ハタチノサクラ」を結成。式典のテーマを「桜花爛漫」と定め、月2回、計10回にわたる活動を通じて、映像制作や当日の企画、プログラム作成などを進めてきた。

鶴岡さんは、式典後に設けられたフォトスポットの企画を担当したほか、当日の運営にも関わった。準備期間中は意見調整や企画の具体化に苦勞する場面もあったが、同世代の思いを形にする経験は大きな学びとなったという。

式典当日、約1,500人の参加者が集う会場で、自らが携わった企画が実現し、多くの笑顔が生まれる様子を目にした鶴岡さんは、「一生の思い出に残る日になった。これからも様々なことにチャレンジしていきたい」と話す。



1月のできごと



- 1月8日 ○ 事務取扱開始
- 1月11日 ○ 初釜(津田沼キャンパス2号館20階「青灯亭」)
- 1月15日 ○ 令和8年文化会新年会
- 1月17、18日 ○ 大学入学共通テスト
- 1月19日 ○ 甲府工業高等学校との包括的連携協定締結式
- 1月22日 ○ 第43回 祝勝・奨励会
- 1月23日 ○ ちば新事業創出ネットワークセミナー
- 1月28日 ○ 大多喜町大多喜小学校のプログラミングモデル授業開講(ソーシャルAL)
- 1月30日 ○ 学友会新年会

3月のスケジュール

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
大学院入試			入学試験			
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
学位記授与式			春分の日			
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	オープンキャンパス			